

“ふるさとちば”のための政策推進を



しだ光保県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

銚子市 特集

地域医療再生プログラムで 具体的事業を検討中

銚子市立病院へ支援策を



9月定例会で 壇上から質問する信田県議

銚子市民の代弁者として、県議2期目の充実した議会活動を展開する信田光保(しだ・みつやす)議員は、9月定例会の一般質問に登壇し、銚子市立病院をはじめとする地域連携病院への県の支援を強く求めたほか、高齢者や障害者のための中核地域生活支援センターの充実・強化を要望しました。また、老朽化した特別養護老人ホーム・銚子外川園の移転・改築などでも県の支援を訴えました。このほか、銚子漁港の整備や国道126号の八木拡幅など地域の課題も取り上げ、県の整備方針をたどりました。

9月県議会 一般質問

信田議員 医療崩壊のシンボルとして全国に衝撃を与えた銚子市立病院は、本年5月1日、1年7カ月ぶりに再開し、5月6日内科外来から診療が再開されました。休止した後、市民の意向を踏まえ、「2次救急機能を担う病院」として位置づけられ、まず、再開することを第一目標として進められ、その第一段階の支援を県に行っていました。

現在は、患者数も増加傾向にあります。一度休止してしまつた病院を以前のように入院・手術ができる2次救急を担う病院にすることは並大抵の努力ではありませぬ。県は、国の地域医療再生臨時交付金を活用して、地域医療が抱える課題を解決するため、「千葉県地域医療再生プログラム」を策定しましたが、香取海浜地域保健医療圏の地域医療再生プログラムについて、県はこれまでどのような取り組みをしているのか。

健康福祉部長 香取海浜地域の市町長や医療関係者等で構成する「地域保健医療協議会」や本年3月に設置した「千葉県地域医療再生本部」において、市町村や地元との関係がどのような医療を目指すのか、また、そのために何を必要としているのかを伺いながら進めています。

5月に開催した協議会では、自治体病院の現状や課題、旭中央病院を中心とした役割分担、機能再編、連携強化の重要性などについて意見交換を行い、再生本部の会議で、協議会の結果を報告するとともに、具体的に実施する事業について検討したところです。

健康福祉部長 本年6月以降、地域連携病院の機能強化に必要な医師の確保や医療機器の整備などについて、病院や市町村からの意見を伺い、ワーキンググループで具体的な検討をしているところです。今後、9月下旬から10月上旬にかけて、協議会や再生本部の会議を開催し、支援の具体的な内容について協議し、その結果を踏まえて事業を進めていきたいと考えています。

銚子市外川園 信田議員 特別養護老人ホーム銚子市外川園について、1点要望いたします。銚子市外川園は、県内初の特別養護老人ホームとして昭和42年7月に開所し、これまで銚子地域における高齢者福祉を支える拠点施設として大変重要な役割を果たしてまいりました。

老朽化特養への支援要望

特に、低所得層の高齢者を受け入れ、地元・銚子市のみならず、海浜地域において、なくてはならない施設となっております。しかしながら、外川園は開所以来43年を経過し、施設の老朽化が著しく、また、一部に6人部屋が存在するなど、

県においては、平成21年度から国の経済危機対策として実施した介護基盤の緊急整備にあわせ、広域型特別養護老人ホームの補助単価を増額し、施設整備を積極的に進めております。

平成23年度



老朽化した外川園を視察する信田県議

明日の銚子をともに拓こう!

●県政や銚子市のご相談をお気軽にお寄せください……

しだ光保事務所

〒288-0044 銚子市西芝町13-20 Jビル2F
 TEL. 0479(25)3284
 FAX. 0479(22)1816

は、経済危機対策の最終年度であり、今年度以上の整備要望が寄せられることが予想されますが、外川園の現状をご理解いただき、このような老朽化した施設の移転・改築について、支援できるような十分な予算の確保について特段のご配慮をお願いいたします。

銚子の活性化を目指します

銚子漁港の整備促進 黒生地区計画変更について決定!!



本会議場で再質問に立つ信田県議

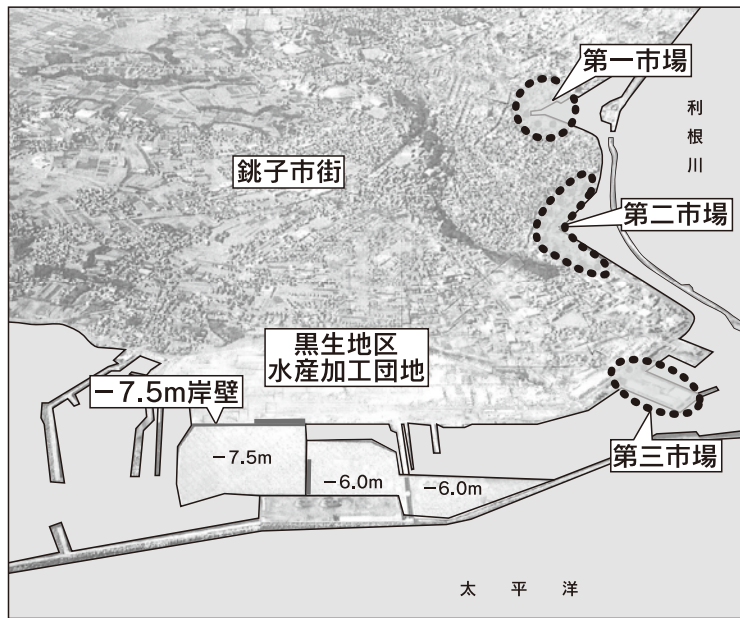
-7.5m岸壁の早期供用を要望!

農林水産部長 銚子漁港
今回の計画変更により、南北

信田議員 4年連続水揚げ日本一の銚子漁港は、水産物の水揚げ、流通、貯蔵、加工まで一貫した総合漁業基地であり、国内水産物供給基地として重要な役割を果たしています。特に銚子漁港黒生地区においては、泊地の静穏度や水深の確保に必要な整備を行い、マイナス7.5m岸壁の早期供用は、銚子市漁協のみならず全国の漁船が待ち望んでいると言っても過言ではありません。そこで伺います。黒生地区における特定漁港漁場整備事業計画の変更内容はそのようなものか。

農林水産部長 銚子漁港は、本県水産業を支え、地域経済にも重要な位置を占めていることから、より安全で機能の充実した漁港の整備に向け、計画変更したところ。今回の計画変更は、銚子漁港黒生地区を有効活用するため、冬季波浪時にも安全に入港できる新航路や単船式大型まき網船にも対応した岸壁の静穏度の向上を図る南内防波堤などの整備を内容としています。

信田議員 この計画変更による効果をどのように見ているのか。
また、マイナス7.5m岸壁は、全国の漁港でも数少ない水深の確保された岸壁であり、単船式大型まき網船にも対応が可能となるため、入港漁船の増加が見込まれ、水揚げ量の増加が期待されます。このことから、銚子漁港の競争力がより一層高まり、本県水産業及び地域経済の発展に寄与するものと考えております。



銚子漁港の全体図

第1卸売市場の機能強化

信田議員 本年2月の予算委員会でも、「近年の厳しい漁業環境の中で、銚子市漁協が自らの経営努力と財務基盤の改善を進める中、将来に向けて新しい機能を加えた市場の施設整備に取り組む場合、県の支援はどうか」と、私は質問しましたが、これに対し、県からは「銚子市漁協から施設整備の具体的な要望があった場合、

子大橋を見渡せる絶好の地域でもあります。この基本計画は特に環境や衛生管理の徹底した市場づくりを目指すため、調査や、直販施設、飲食店及び市場の見学者用通路など観光振興にも配慮した構想がまとめられています。そこで、伺います。銚子



再整備が迫られている第1卸売市場

事業化に向け国と協議

農林水産部長 銚子漁港には、県内・県外のまき網船や底びき網漁船などが入港し、平成21年度には233億円の水揚げ高を誇っています。このうち、第1卸売市場は、主に価格の高い生鮮マグロを年間50億円も取り扱っており、建築後45年を経過し、老朽化が著しくなっております。このたび、銚子市漁協が第1卸売市場の再整備に関

する基本構想を策定したことから、国の事業等を導入して、衛生管理の機能を向上させた市場の整備を図りたいとの要望が県に対してあったところです。県としては、今後、衛生管理体制の構築などの課題等について、地元市・漁協と連携しながら検討していくとともに、事業化に向けて国と協議を進めるなど、市場機能の強化に努めたいと考えています。

地域資源を有効に活用して、

国道126号八木拡幅

信田議員 県内主要都市から千葉市までの到達時間を1時間に近づける「県都1時間構想」の達成に向け、県は現状と目標の数字を発表しました。それによると、県全体の達成率は平成20年度で67%であり、24年度までに72%を目標にしています。

しかし、香取海浜地域や安房鴨川地域など、県都1時間構想全体の約35%が未達成となっています。現在、県都1時間構想を推進する上で進められているのが国道126号八木拡幅です。この道路は、将来銚子連絡道路として機能していくものと期待されており、一日も早い整備が望まれています。国道126号八木拡幅の進捗状況と今後の進め方はどうか。

国道356号バイパス

信田議員 銚子市を基点として香取市、成田市及び印西市を経て我孫子市に至る国道356号は、東総地域から北総地域における重要な幹線道路であり、銚子市内においてもバイパス整備が行われており、県当局の努力により、すでに一部を供用しております。しかし、歩行者の安全と円滑な交通確保のためには、全線の早期完成が強く望まれています。そこで伺います。国道356号銚子バイパスの進捗状況と今後の進め方はどうか。

長約8・2キロの整備を進めているところです。このうち

来年一部工事に着手することですが、早期完成を目指していただきますよう要望します。

新エネルギー産業の振興

信田議員 国は、本年6月に策定したエネルギー基本計画において、太陽光発電、風力発電、バイオマスなどの新エネルギーの割合を2020年までに10%を目指すこととしております。新エネルギーの活用は、今後、発展する可能性の大きな産業分野であり、県として、県内経済活性化のためにも、国及び事業者と連携して新エネルギー産業の振興に取り組んでいく必要があると考えます。

また、県内のエネルギー関連企業で先進的に取り組んでいる事例の見学・体験してまいります。

などを通じて県民への理解や関心を高めることにより、新エネルギーの普及を促進してまいります。

県が各種調査を支援

信田議員 新エネルギーの中でも、銚子は風力発電の盛んな地域です。現在、東京電力は、洋上発電の実用化を図るため、今年度から4年間、国の独立行政法人である新エネルギー・産業技術総合開発機構(通称・NEDO)との実証研究事業を受託し、現在、銚子の沖合い3キロに洋上風力発電の施設を建設しており、来年夏には準備を終え、運転を開始することになっております。

そこで、本県における洋上風力発電の可能性はどうか。また、県は今回の東京電力の事業と連携して地域活性化に向けた取り組みをすべきと思います。

森田知事 洋上風力発電は、陸上風力発電に比べて①施設の設置、稼動に伴う景観、騒音等の問題が軽減できること②施設の大規模

が容易になること③などの点で優れており、欧州などではすでに多くの施設が稼動しています。本県は、長い海岸線を有し、遠浅で平坦かつ地盤の固い海域が多く存在することから、台風などが国の自然環境に対応した運転・保守技術が確立されれば、洋上風力発電の導入が進むことが期待されます。県では、今回の東京電力の実証研究事業に対し、地元市とも連携しながら、地域の活性化につながるよう、情報提供や各種調査などを支援してまいります。



国道356号バイパス整備の現地を確認する信田県議

県都1時間構想の達成を!

県土整備部長 国道126号八木拡幅については、現道の交通混雑緩和や事故多発区間の解消を図るため、銚子市三崎町地先から旭市八木地先に至る延長約5・7キロの現道拡幅及びバイパス整備を進めております。このうち、昨年度は銚子市三崎町地先の市道との交差

点改良工事を実施したところですが、現在、西側約3キロのバイパス区間の用地買収を優先的に実施しており、平成21年度末の進捗状況は、事業費ベースで約12%です。今後も、引き続き地元関係者や関係機関の協力を得ながら、用地買収を鋭意進め、バイパス区間の早期完成を目指してまいります。

県土整備部長 国道356号銚子バイパスは、銚子市内の交通混雑の緩和を図るため、銚子市大橋町地先から小船木町地先に至る延

ち小船木町地先から芦崎町地先までの約3・4キロ区間は、平成19年度までに供用しております。

平成21年度末の進捗状況は、事業費ベースで約80%、用地取得は面積ベースで約85%となっており、平成23年度には長塚町地先で工事に着手する予定です。今後も、地元関係者や関係機関の協力を得ながら、事業の推進に努めてまいります。

森田知事 太陽光発電や風力発電などの新エネルギーの普及拡大は重要であり、わが国の強みを生かした成長産業分野としても期待されています。



中核地域生活支援センター

相談者の問題解決に向け支援

電話、家庭訪問、親身な対応で実績

信田議員 私は先日、県から委託を受けた中核地域生活支援センター「海匠ネットワーク」を訪問し、現状を伺ってきました。相談などにあたっては、電話だけでなく家庭を訪問するなど、市町村やさまざまな機関と連携しながら、相談者の問題解決に向けて本当に頑張っており、その姿に感動さえ覚えました。

今年度から委託費を大幅に減額したが、来年度以降の事業費をどのように考えているのか。

健康福祉部長 中核地域生活支援センター事業開始後、高齢者分野では地域包括支援センターが、障害者分野では自立包括支援センターが設置されるなど、市町村を中心とした地域の相談体制が整いつつある状況を踏まえ、県では、事業の見直しを行い、事業費の一部を減額したところです。

県としては、住民に身近な基礎自治体である市町村が相談の主体的な役割を担えるよう、困難事例の解決に向けた連携の強化や後方支援等を進めていくこととしており、このことが地域全体の相談体制の強化・拡充と中核センターの負担軽減につながるものと考えています。

しかし、市町村が総合相談体制などを整備するためには、時間を要すると考えられることから、当面は中核センターを維持しながら、市町村が相談の主体的な役割を担えるよう支援してまいります。

中核センターとは

中核地域生活支援センターとは、全国に先駆けた千葉県独自の事業で、平成16年に県内14カ所に設置。現在は13カ所で24時間、365日体制で①

福祉サービスの地域コーディネート②福祉の総合相談③権利擁護など子ども、障害者、高齢者を含めたすべての県民を対象に相談業務が行われています。相談件数は、年々増加し、年間9万件を超えています。

現場の切実な声を伝え

要望 中核地域生活支援センターですが、この質問でこの事業の評価をどのように見ているかというところが聞きたかった一つです。

このことについては、民主党の代表質問で質問があり、坂本副知事の答弁では「中核センターの機能は、地域における重要な相談支

援機能であること」との答弁がありました。大変評価をしているということだと思えます。

現場の声をここで聞いていただきたいと思います。事業がなくなることが一番困る「個別の相談ベースだが、目的は地域づくりである」「新しいコア、地域の新しい社会をつくるには、人材の育成が重要だ。人材の育成には10年から20年かかる」「こういったことを切実に訴えておりました。



海匠ネットワーク事務所にて

確かに、住民に必要なところで、相談ができる体制を確立することは重要であり、大いに進めていく必要があると思います。しかし、市町村には財政力の豊かなところとそうでないところがあるわけでして、総じて市町村を中心とした相談体制が整うには、相当な期間を要すると思われま

このような中において、相談実績にも現れているように、これから中核センターは、県民にとってなくてはならない相談機関であると考えます。これからも中核センターがこの機能を十分発揮できるように人員の充実、強化に向けた予算の増額を要望したいと思います。



環境生活警察常任委員会副委員長として委員会をリードする信田県議

銚子市特集 9月県議会一般質問

信田みづや

県政に新風を

しだ光保県議

信田光保県議プロフィール

略歴

- 昭和38年7月 銚子市生まれ
- 昭和61年3月 国士舘大学政経学部政治学科卒業
- 平成19年4月 千葉県議会再選
千葉県社会福祉審議会会長
健康福祉常任委員会委員長
自民党県連青年部長
農林水産常任委員会委員長

現職

- 県議会 環境生活警察常任委員会副委員長
- 千葉県 土石採取対策審議会委員
- 自民党県連 組織本部副本部長
青年局次長

お知らせ 信田光保県議の9月定例会の質疑は、県議会のホームページの「議会中継」でご覧いただけます。